

# 尾島町囲遺跡Ⅲ

福岡県筑後市大字尾島所在遺跡の調査  
筑後市文化財調査報告書  
第100集

2012

筑後市教育委員会

## 序

本書は、平成 23 年度に発掘調査を行った尾島町岡遺跡第 3 次調査の記録です。

当遺跡が所在する大字尾島は、現在の国道 209 号沿いに江戸時代の在郷町が形成された地域であり、今でも当時の地割りが残っています。今回の調査では、町全体を囲む溝の一部を調査することができ、当時の町の様相を窺い知ることができました。

この成果が今後の調査研究に活かされていくとともに、本書が地域における文化財保護への理解を深める一助となれば幸いです。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、多大なご協力を賜りました関係者の方々に心より御礼申し上げます。

平成 23 年 3 月

筑後市教育委員会  
教育長 高巣一規

## 例言

1. 本書は平成 23 年度に筑後市教育委員会が行った尾島町岡遺跡第 3 次調査の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査及び出土遺物の整理は筑後市教育委員会が行った。出土遺物、図面、写真等は筑後市教育委員会で収蔵、保管している。発掘調査及び整理作業の関係者は第 I 章に記している。
3. 本書に使用した図面の遺構図は吉村由美子が作成した。また、遺物実測図作成及び図版浄書は整理委託事業として株式会社アーキジオが行った。
4. 本書に使用した遺構・遺物の写真撮影は吉村が行い、空中写真是有限会社空中写真企画に委託した。
5. 今回の調査に用いた測量座標は国土調査法第 II 座標系（世界測地系）を基準としている。
6. 本書に使用した遺構の表示は以下の略号による（筑後市における埋蔵文化財の取り扱いについて：2002 に準拠している）。  
SD - 溝 SK - 土坑
7. 本書の編集、執筆は吉村が行った。

## 目次

I . 調査経過と組織	1
II . 位置と環境	2
III . 調査成果	4
写真図版	

## I . 調査経過と組織

本調査地点は筑後市大字尾島字町間に所在する。宅地造成に伴い、平成 22 年 10 月に開発予定者であるコガホーム株式会社から試掘・確認調査依頼が筑後市教育委員会に提出され、担当課である社会教育課が同年 11 月に現地での試掘調査を実施した。試掘調査の結果、当該地のほぼ全面で遺構が確認されたため、開発による埋蔵文化財の取り扱いについて、工事主体者であるコガホーム株式会社及び株式会社西新不動産と協議を行った。協議の結果、住宅部分については建築の際に個別に協議すること、今回は恒久構築物である道路部分について本調査を実施することで合意した。道路部分約 393 m<sup>2</sup>について、平成 23 年 6 月 29 日から同年 7 月 29 日まで現地での発掘調査を行い、報告書作成作業を平成 23 年 3 月に完了した。

### 【調査組織】

#### 1. 平成 22 年度（事前審査）

総括	教育長	高巣 一規
	協働推進部長	山口 辰樹
庶務	社会教育課長	高井良清美
	社会教育係長	馬場 信二
	社会教育係	小林 勇作
	（文化財担当）	上村 英士（試掘調査担当）
		吉村由美子（嘱託：試掘調査担当）

#### 2. 平成 23 年度（本調査・報告書作成）

総括	教育長	高巣 一規
庶務	社会教育課長	高井良清美
	社会教育係長	村上 一彦
	社会教育係	小林 勇作
	（文化財担当）	上村 英士
		吉村由美子（嘱託：本調査・報告書担当）

#### 4. 発掘調査参加者

石橋香代美・植田 勝子・蒲池 京子・河添 幸子・城崎マスヨ・田島ヤス子・田島 好江・堤 義弘・中村 富男・堀田 武利・三瀬美樹子

#### 5. 整理作業参加者

辻 美穂

調査及び整理作業に際しては、次の方々にご指導、ご教示を賜った。記して心より感謝申し上げます。（順不同、敬称略）

岸本 圭（福岡県教育庁文化財保護課）・近澤 康治・熊代 昌之（久留米市市民文化部）

## II. 位置と環境

### 1. 地理的環境

筑後市は福岡県の南西部、筑紫平野の中央部に位置する。市域をJR鹿児島本線と国道209号が縦断し、国道442号が横断する。また、市南西部には一級河川の矢部川、中央部には山ノ井川や花宗川、北部には倉目川が西流する。市北部には耳納山地から派生する八女丘陵が西に延び、灌漑用の溜池が点在する。低位扇状地である東部や、低地である南西部には農業水路が発達している。当市は県内有数の農業地帯であり、北部の丘陵地域には果樹園や茶畠、東部には米麦中心の田園地帯が広がる。市街地は国道に沿って市の中心部に形成されている。

### 2. 歴史的環境

尾島地区は、市域の南部、標高12mほどの低位段丘上に立地する。地区のほぼ中央を現在の国道209号が通るが、これは旧薩摩街道（坊津街道）を踏襲している。当遺跡が所在する字「町団」は、藩政期には街道に沿って在郷町「尾島町」が形成されていたことが知られている。

元の尾島村は、現在の尾島町より南に下った、船小屋付近の小村であったが、矢部川と松永川に挟まれた地形のため、度々洪水に見舞われていた。延宝元年（1673年）の洪水では特に大きな被害が出たため、村の大庄屋であった下川三郎右エ門が久留米藩に願い出て、翌延宝2年に一條松原（現在の大字尾島字町団）を開拓し、南北320間、東西30間を堀で囲み、町を整備した。この土地に尾島村や近隣の村から115軒が移住し、町の北東に天満神社を、南東には常用村から興満寺を移し、地名を「尾島町」と改めたのが、現在の尾島町の始まりである。

これまでの調査では、前年度に行われた尾島町団遺跡第2次調査<sup>注1)</sup>で町屋と平行する近世の溝などが検出された。第1次調査<sup>注2)</sup>においては、町の外堀と考えられる溝や、屋敷内の区画溝などが確認されている。また、町の東側には、洪水対策の土堤が一部現存する箇所がある。

その他、周辺では主に中世～近世に属する遺跡が確認されている。鶴田中市ノ塚遺跡（第1次～5次調査）<sup>注3)</sup>では、掘立柱建物や井戸等、中世の集落跡が確認されている。また、第1次・3次・4次調査では、古代官道（西海道）の道路跡が検出されている。

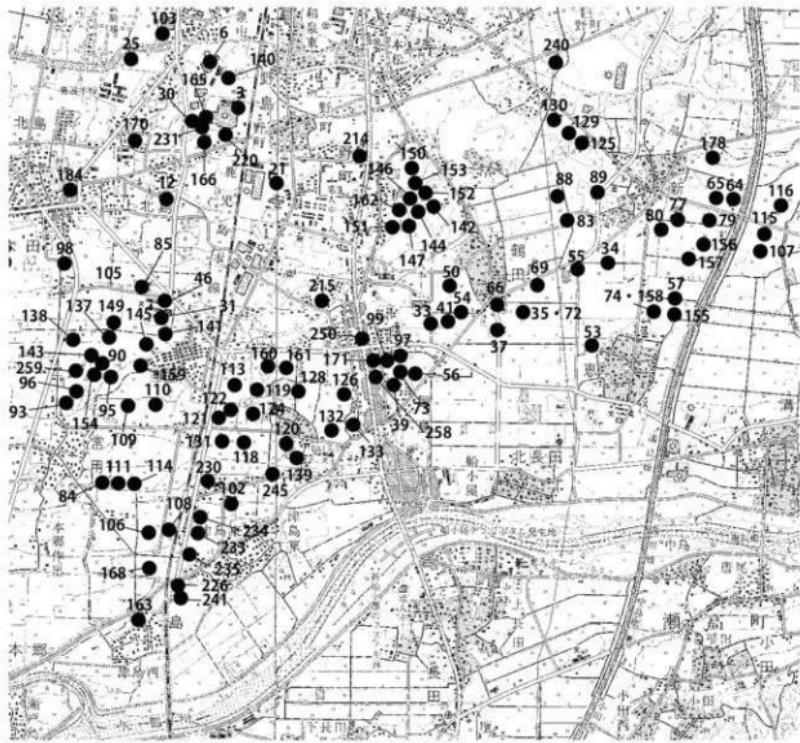
#### 【註】

1. 上村英士『尾島町団遺跡Ⅱ』筑後市文化財調査報告書第97集 筑後市教育委員会 2011
2. 小林勇作『尾島町団遺跡』筑後市文化財調査報告書第40集 筑後市教育委員会 2002
3. 小林勇作『鶴田中市ノ塚遺跡（第1～5次調査）』『筑後市内遺跡群Ⅳ』

筑後市文化財調査報告書第45集 筑後市教育委員会 2002

#### 【参考文献】

- 『筑後水洗郷土史』 筑後市教育委員会 筑後郷土史研究会 1986  
『筑後市史』第一巻 筑後市 1997



#### 258 尾崎町遺跡群(第3次調査)

- 003 稲垣遺跡(第1次調査)  
006 幕原寺跡(第1次調査)  
012 上北島田遺跡(第1次調査)  
012 上北島田遺跡(第2次調査)  
021 上北島田遺跡(第3次調査)  
025 下北島田遺跡(第1次調査)  
030 上北島田遺跡(第2次調査)  
031 上北島田遺跡(第3次調査)  
033 鶴田寺遺跡(第1次調査)  
034 剣山丸山遺跡(第1次調査)  
035 鶴壁遺跡(第1次調査)  
037 鶴田高尾遺跡(第1次調査)  
039 鶴田牛中ノ塚遺跡(第1次調査)  
041 鶴田平野遺跡(第2次調査)  
046 木田上町遺跡(第2次調査)  
050 鶴田沢山遺跡(第3次調査)  
055 久也舟元遺跡(第1次調査)  
059 久也舟元遺跡(第2次調査)  
063 久也舟元遺跡(第3次調査)  
066 久也舟元遺跡(第4次調査)  
069 久也舟元遺跡(第5次調査)  
072 鶴田城跡(第2次調査)  
073 鶴田牛中ノ塚遺跡(第1次調査)  
074 久也舟下遺跡(第2次調査)  
077 久也舟上遺跡(第1次調査)

#### 079 久也舟内浜遺跡(第2次調査)

- 080 久也舟中野遺跡(第1次調査)  
083 鶴田西畠遺跡(第1次調査)  
084 津島南里生遺跡(第1次調査)  
085 水木村元遺跡(第1次調査)  
089 鶴田西郷遺跡(第1次調査)  
090 宮田川行道遺跡(第1次調査)  
093 宮田長田遺跡(第1次調査)  
095 宮田中野遺跡(第2次調査)  
096 宮田長田遺跡(第2次調査)  
097 鶴田牛中ノ塚遺跡(第1次調査)  
098 木田下野遺跡(第1次調査)  
099 鶴田牛中ノ塚遺跡(第2次調査)  
102 津島西美田遺跡(第1次調査)  
103 久也舟近遺跡(第1次調査)  
105 木田村元遺跡(第2次調査)  
106 木田牛中遺跡(第2次調査)  
107 渡口北野遺跡(第1次調査)  
108 渡島丘町遺跡(第1次調査)  
109 宮田川行道遺跡(第1次調査)  
110 宮田野下野遺跡(第1次調査)  
113 津島南里生遺跡(第2次調査)  
117 久也舟北野遺跡(第1次調査)  
118 久也舟中野遺跡(第1次調査)  
119 木田上野遺跡(第1次調査)  
120 木田牛中野遺跡(第1次調査)  
121 木田牛中野遺跡(第2次調査)  
122 木田牛中野遺跡(第3次調査)  
124 木田牛中野遺跡(第4次調査)  
126 尾島大町遺跡(第1次調査)  
128 尾島中野遺跡(第1次調査)  
129 尾島牛中野遺跡(第1次調査)  
130 尾島牛中野遺跡(第2次調査)  
131 尾島牛中野遺跡(第3次調査)  
132 尾島牛中野遺跡(第4次調査)  
133 尾島牛中野遺跡(第5次調査)  
137 尾島牛中野遺跡(第6次調査)  
138 尾島牛中野遺跡(第7次調査)  
139 尾島牛中野遺跡(第8次調査)  
140 上北島行道遺跡(第2次調査)  
141 木田上仁良要遺跡(第1次調査)  
143 木田牛中野遺跡(第1次調査)  
142 鶴田牛中野遺跡(第1次調査)  
143 木田牛中野遺跡(第2次調査)  
144 鶴田牛中野遺跡(第3次調査)  
145 木田上仁良要遺跡(第2次調査)  
146 鶴田牛中野遺跡(第4次調査)  
147 鶴田牛中野遺跡(第5次調査)  
149 木田上平野行道遺跡(第1次調査)  
150 木田牛中野遺跡(第6次調査)  
151 木田牛中野遺跡(第7次調査)  
152 木田牛中野遺跡(第8次調査)  
153 木田牛中野遺跡(第9次調査)  
154 木田牛中野遺跡(第10次調査)  
155 木田牛中野遺跡(第11次調査)  
156 木田牛中野遺跡(第12次調査)  
157 木田牛中野遺跡(第13次調査)  
158 木田牛中野遺跡(第14次調査)  
159 木田牛中野遺跡(第15次調査)  
160 木田牛中野遺跡(第16次調査)  
161 志八反田遺跡(第1次調査)  
162 鶴田牛中野遺跡(第17次調査)  
163 津島牛中野遺跡(第18次調査)  
165 上北島行道遺跡(第19次調査)  
166 上北島行道遺跡(第20次調査)  
168 津島牛中野遺跡(第21次調査)  
170 上北島行道遺跡(第22次調査)  
171 尾島牛中野遺跡(第23次調査)  
178 新唐古田遺跡(第1次調査)  
184 木田上町遺跡(第1次調査)  
214 野町東半野遺跡(第1次調査)  
215 上北島山遺跡(第2次調査)  
220 鶴田遺跡(第2次調査)  
226 津島牛中野遺跡(第2次調査)  
230 津島牛中野遺跡(第3次調査)  
231 上北島牛中野遺跡(第3次調査)  
233 津島牛中野遺跡(第4次調査)  
234 津島牛中野遺跡(第5次調査)  
235 津島牛中野遺跡(第6次調査)  
236 津島牛中野遺跡(第7次調査)  
240 長浜ノ下久保遺跡(第1次調査)  
241 津島牛中野遺跡(第8次調査)  
245 志五反田遺跡(第1次調査)  
250 尾島牛中野遺跡(第2次調査)  
259 宮田川行道遺跡(第3次調査)

Fig.1 周辺遺跡分布図 (1/10,000)

### III. 調査成果

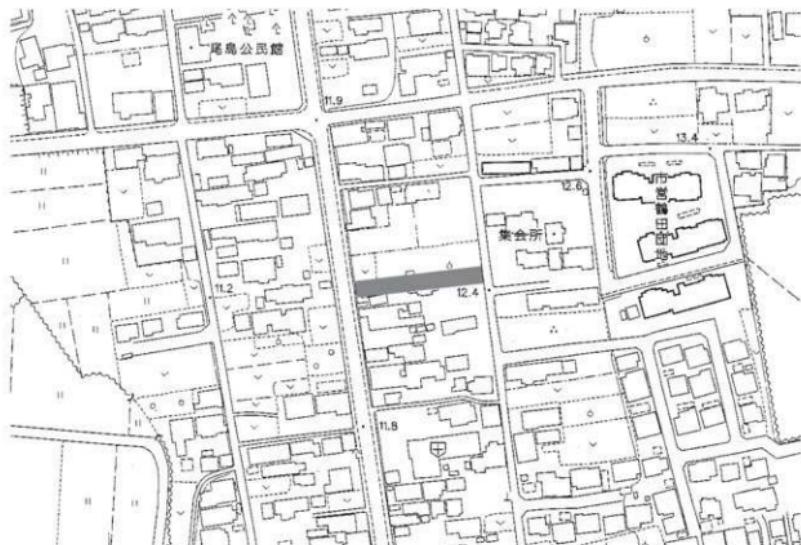


Fig.2 調査地点位置図 (1/2500)

#### (1) はじめに

計画道路部分にあたる 393 m<sup>2</sup>に調査区を設定した。調査は吉村が担当し、平成 23 年 6 月 29 日より遺構の掘削を開始した。掘削は表土から遺構面までを(有)徳光建設に委託し、遺構面からは地元作業員による手作業の掘削を行った。平成 23 年 7 月 29 日に調査区全体の空中写真撮影を行い、調査を終了した。

#### (2) 検出遺構

##### 溝

##### 3SD01 (Fig.3・6、Pla.1・2・3・4)

調査区東端において検出した、南北方向の溝である。真北より 5° ~ 7° ほど西へ振り、調査区東側に隣接する現道と平行に走る。遺構の東側は調査区外にあたるため、溝の幅は確認できなかった。深さは約 1.4m を測る。断面は緩やかな U 字状を呈すると思われる。地山は礫を多く含む黄褐色土で、埋土の中程には地山に近似した黄茶色土を含む層がある。出土遺物は土師器（鉢・甕）、磁器（皿・碗・壺）、陶器（鉢・擂鉢・甕・急須・蓋）瓦、土製品（棒状土製品・不明土製品）などがある。

##### 3SD05 (Fig.3・6、Pla.1・3・4)

3SD01 の西側で検出した。上から近現代の搅乱を受けているため正確な規模は不明であるが、上部幅は 1.4m 程度と推測される。深さは 0.3m を測る。底面はほぼ平坦となる。遺構の西端数箇所に深さ 0.4 m 程の溝状の窪み部をもつが、これは西側に広がる搅乱によるものと考えられる。土師器（甕・片）、磁器（蓋）などが出土している。

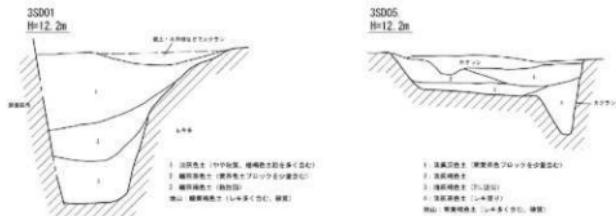


Fig.3 3SD01・05 土層観察図 (1/40)

## 土坑

### 3SK02 (Fig.6, Pla.1)

3SD05 の西側で検出した。東側は搅乱を受けているが、平面形態は円形もしくは梢円形を呈するとと思われる。検出最大長は 1.3m、深さ 1.2m を測る。出土遺物は皆無であった。

### 3SK03 (Fig.6, Pla.1)

調査区北側で検出した。西側と南側は搅乱を受けている。平面形態梢円形を呈すると思われる。検出最大長は 1.0m、深さは 0.8m を測る。磁器 (皿・徳利)、陶器 (鉢・擂鉢・皿 × 碗・片)、瓦が出土している。

## (3) 出土遺物

### 溝

### 3SD01 (Fig.4, Pla.7)

#### 磁器

皿 (1・2) 1 は染付皿で、見込には呉須で書物の文様を描く。淡乳茶色の素地に青みがかった透明釉を全体に施すが、高台内は蛇ノ目上に釉が掻き取られている。全体に貫入が見られる。内面には 4ヶ所のハリ支え痕が認められる。2 は染付の小皿で、外面に呉須で鳥を描く。淡灰色の素地にやや青みがかった透明釉を施す。高台疊付は露胎。

碗 (3・4) 3 は青磁碗で、淡灰色の素地に淡灰白色釉を施す。高台疊付は露胎。4 は染付の碗で、粗い淡黄茶色の素地に灰白色釉を全体に施す。外面には深い呉須で草花を描く。

#### 陶器

蓋 (5) 摺宝珠のつまみを有する。外面の口縁部から天井部にかけて施釉。つまみ径 1.5 cm、口縁径 10.1 cm、かえり径 7.7 cm を測る。

擂鉢 (6) 口片部で、全体に鉄釉を施す。口辺外面は沈線によって仕上げる。

#### 瓦

平瓦 (7) 表面は工具によるケズリ調整。側端部は面取りを施す。色調は淡黄灰色を呈する。

丸瓦 (8) 磨耗のため調整不明。側端部は面取りを施す。色調は内面淡黒灰色、外面黄灰色、を呈する。

#### 土製品

棒状土製品 (9) 4 面に面取りを施す。表面は工具による横方向の調整痕が認められる。色調は淡橙茶色を呈する。

不明土製品 (10) 被熱し、鉄分が融着する。

### 3SD05 (Fig.4, Pla.8)

#### 土師質土器

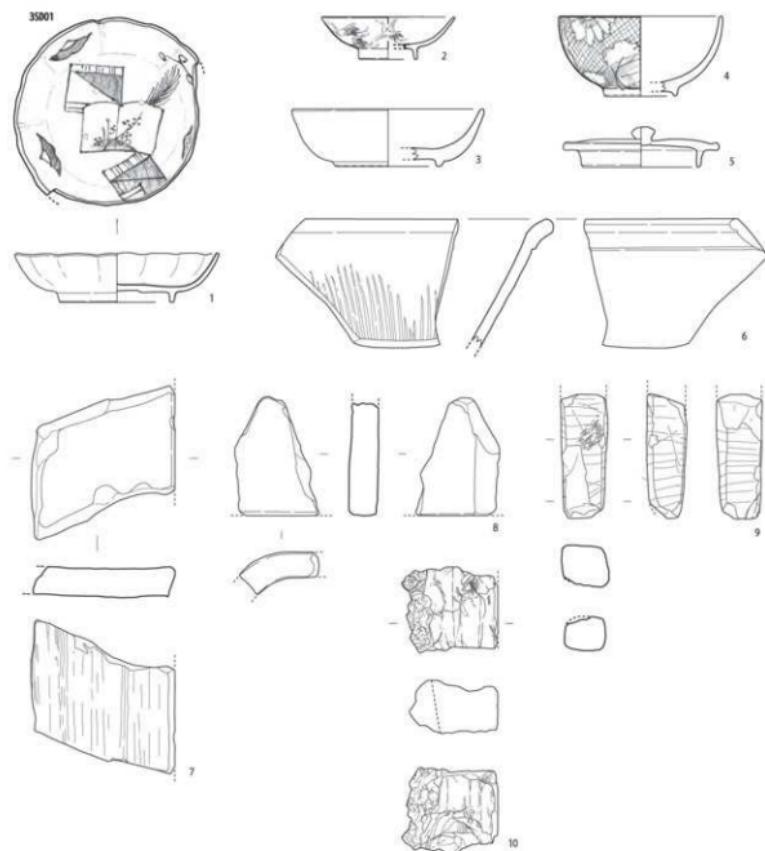


Fig.4 3SD01・05 出土遺物実測図 (1/3)

**火鉢（11）** 口辺部片で、上端は素口縁である。外面は2本単位で突帯を貼り付け、波状の文様と管状のスタンプを施す。内面は横方向の工具調整。色調は内面淡橙茶色、外面淡黄茶色を呈し、内面には一部黒斑が見られる。

**土坑**

**3SK03 (Fig.5, Pla.8)**

**磁器**

**皿（12）** 染付皿で、呉須は墨色に発色する。淡灰色の素地に青みがかった乳灰色釉を施す。見込中央は蛇ノ目状に釉を薄く削り取っている。高台置付から内側は露胎。高台脇は釉が溶け残り、鮫肌状を呈する。

**陶器**

**擂鉢（13）** 口辺部片で、口縁を内側に折り返す。内面に施釉し、口縁の内面上部から外面にかけて釉を重ね掛けている。

**皿×碗（14）** 底部片で、黄白色の素地に飴釉を施す。高台置付から内側は露胎。見込は蛇ノ目状に釉を搔き取る。

**瓦**

**平瓦（15）** 表面は工具によるケズリ調整。側端部は面取りを施す。色調は内面淡黒褐色、外面淡灰褐色を呈する。

**搅乱埋土 (Fig.5, Pla.8)**

**磁器**

**碗（16）** 染付けの小碗である。灰白色の素地に青みがかった透明釉を施す。高台置付は露胎。外面には淡い呉須で草花文を描く。

**蕎麦猪口（17）** 淡茶灰色の素地に淡青灰色釉を施す。高台置付は露胎。外面には呉須で山と草花を描く。

**壺（18）** 青磁の耳付小壺である。内面は口辺部まで施釉。釉は淡灰緑色に発色する。全体に貫入が見られる。高台置付は露胎。

**土製品**

**煙管（19）** 煙管の吸口部付近。外径0.8cm～1.0cm、孔径0.4cmを測り、先端に向かってやや扁平となる。色調は淡茶灰色を呈する。瓦質。

**遺構検出面 (Fig.5, Pla.9)**

**磁器**

**紅皿（20）** 外面は貝殻状を呈する。口縁から内面にかけて施釉。釉は乳茶色に発色し、外面の一部に釉の付着が見られる。口径5.0cmを測る。

**盃（21）** 青磁の盃である。灰白色の素地に淡青白色釉を全体に施す。兜巾高台で、置付は釉を薄く削る。

**碗（22）** 染付片で、淡灰白色的素地に青みがかった透明釉を施す。全体に貫入が見られる。高台置付は露胎。外面には淡い呉須で花文を描く。

**皿×碗（23）** 染付の底部片である。淡灰色の素地に青みがかった透明釉を施す。高台置付は露胎。高台中央に「吉」字を描く。

**碗×鉢（24）** 染付片で、灰白色的素地にやや青みがかった透明釉を外面に施す。内面は露胎で、一部に釉の垂れた痕跡が残る。外面には呉須で團線を描く。高台置付部は僅かに砂が付着する。

**瓦**

**平瓦（25）** 土師質で、内面は工具によるケズリ調整の後線刻を施す。色調は橙茶色を呈する。

**土製品**

**蓋（26）** ほぼ完形で、焜爐の炭入部の蓋と思われる。やや湾曲した板状製品で、外面に摘み部を貼り付け、3ヶ所抓む。内面は横方向の工具ナデ。側面は内側のみ面取りを施す。胎土に雲母を多く含む。焼成良好。

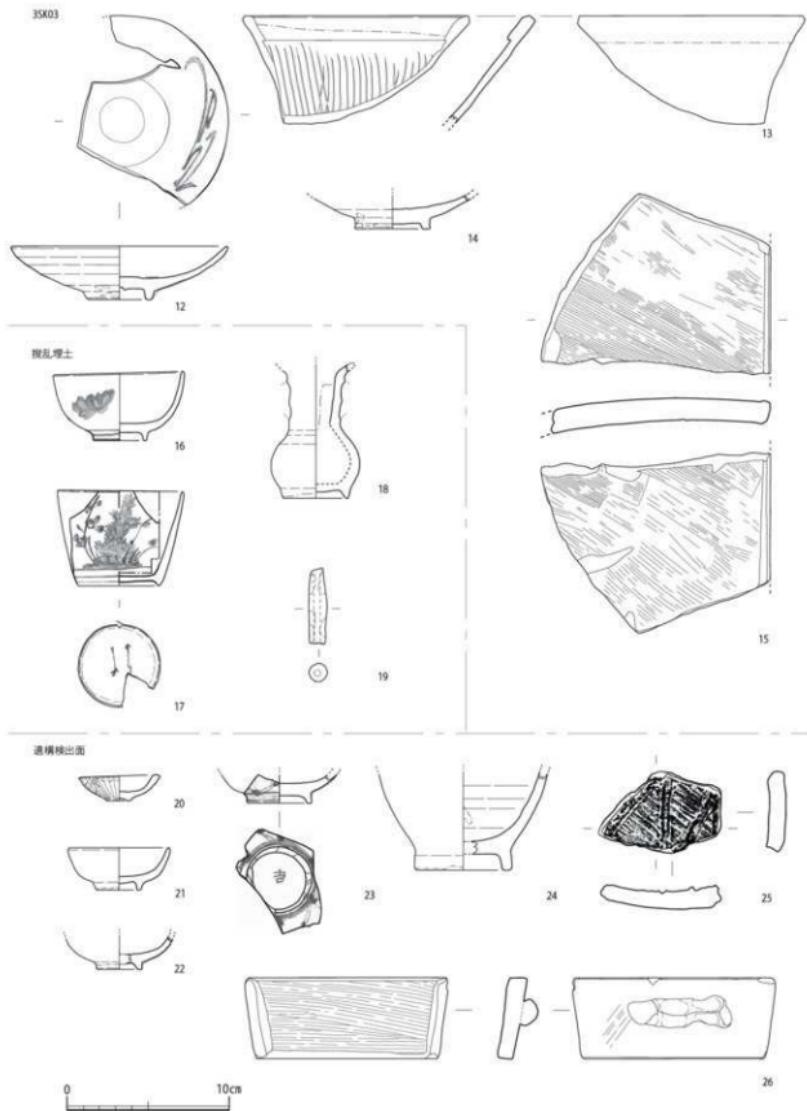


Fig.5 3SK03・搅乱埋土・遺構検出面出土遺物実測図（1/3）

## (4) 小結

### ・溝について

本調査で検出された主な遺構としては、調査区東側の2条の溝が挙げられる。特に3SD01は溝の東側が確認できなかったものの、上幅は3m以上と推測され、規模や検出位置から、第1次調査のSD1と同一の溝であると考えられる。当該地は近世「尾島町」のうち薩摩街道を挟んだ東半の区画に位置する。延宝年間に新たに開かれた尾島町は、町囲の東側に洪水対策の土堤を有し、堀を設けて町全体を囲んでいたということで、3SD01及び第1次調査のSD1は町囲の外堀にあたると推測される。

### ・尾島町について

「II. 位置と環境」でも触れたように、尾島町は河川氾濫を避けて移転開拓された新村である。元は古戦場でもあったと伝えられる人里離れた松原を切り開いた土地で、人家の多さに反して農地が少なく、開村から約100年後には40軒程の空き家があり、残った家も補修ができるほど困窮していたという。そこで、安永年間(1772~81)、安政年間(1854~60)の二度に亘り、商業振興に取り組んでいる。結果、商業希望者に印棒札を交付すること、十年間運上銀を免除すること、運上銀を住民に貸付運用して町の復興を図ること、等の対策案が久留米藩に認められ、尾島町は商業の町として再興し、以降は酒造業者、油屋、紺屋、錫物店など多種多様な商業者が存在したことを史料から読み取ることができる。

ここで今回の調査地点を概観すると、上述のように東側には町の外堀があり、屋敷は西の薩摩街道側に間口を向けていたと思われるが、屋敷部分は近現代の建物基礎や重機によって大きく搅乱を受けており、近世の遺構はほとんど確認できなかった。ただし、これらの搅乱からは、ビニール製品やタイルといった近現代の物とともに、近世の遺物も数多く出土している。

上記の3SD01からは、棒状土製品や鉄分の融着した土製品などが出土している。また、試掘調査において本調査区の北側で鉄滓を含む土坑が検出されていることからも、鍛冶関連施設の存在が示唆される。資料から復元される町の様子と合わせて考えると、この近辺が「錫物店」に当たると推測できそうである。ただし、詳細な位置図等が残っておらず検討が困難であるため、ここでは可能性を指摘するに止めた。

印棒札の種類	交付年次		文久 元年 交付	文久 2年 3月 交付	文久 2年 6月 交付	慶応 元年 交付	明治 元年 現在 所持
	文久 元年 交付	文久 2年 3月 交付					
穀物仲買印札	5				2		7
造酒印札	3						3
鰯(酒)印札	3						3
醸實仲買印札	5						5
鰯物店印札	1						1
代物小間物店印札	6						6
打絲印棒	6		7				13
油船印札	9						10
唐物印札	4						9
受物印札	1						1
鰯(醤油)印札	3						3
錫物振光印札	1						1
薬舗店印札	1						1
諸問屋印札	1						1
油振光印棒	2	2					4
藍瓶印札	1						2
錫物絆印棒	1						2
錫店印札					6		6
錫仲買印札					4		4
錫物井生魚荷印棒					19		19
近國往來印札						5	5
山中通印棒		13					13
煙草印棒		1					1
旅人宿印札		2					2
計	53	25	21	15	122		

Tab.1 尾島町仕起し策による印棒札の交付  
(『筑後市史』より)

### 【参考文献】

『筑後水洗郷土史』 筑後市教育委員会 筑後郷土史研究会 1986

『筑後市史』第一巻 筑後市 1997

『寛延記—久留米藩庄屋書上』 久留米郷土研究会 1975

S-番号	遺構番号	性格	時期	備考
1	31SD01	溝	近世	深さ1.4m以上。町割の外縁
2	3SK02	土坑	近世	
3	3SK03	土坑	近世	
4	欠番			
5	3SD05	溝	近世	

Tab.2 遺構番号台帳

S-1	
土師器	甕、火鉢
陶器	鉢、擂鉢、甕、急須、蓋
磁器	碗(染付、青磁)、壺(青磁)、皿片
土製品	瓦、棒状土製品、不明
土製品	瓦
その他	石(被然)

S-3	
陶器	鉢、擂鉢、皿×碗、片
磁器	皿(染付)、徳利(白磁)
土製品	瓦

S-5	
土師器	甕片、片
陶器	蓋(青磁)
磁器	片
土師器	甕、鉢、火鉢、土鍋
陶器	鉢、擂鉢、片
磁器	碗(染付)、小壺(青磁)、蕎麦猪口(染付)、小皿(染付)、仏飯具
土製品	瓦、煙管片

遺構検出面	
土師器	片
陶器	甕片、擂鉢、壺
磁器	小皿(青磁)、紅皿(白磁)、皿×碗(染付)、片(染付)
土製品	蓋(焜卯)、瓦、瓦(水田燒?)
その他	鉄釘

Tab.3 出土遺物一覧表

Fig.-No.	遺構番号	種類	器種	口径 (mm) 長さ	周高 (mm) 幅	底径 (mm) 厚さ	残存	粘土	機成	色調(難調)		備考
										外面	内面	
4 - 1	3SD01	磁器	瓶	△ 13.20	△ 3.20	△ 7.40	2/3	細64%	良好	灰白色	灰白色	
4 - 2	3SD01	磁器	瓶	△ 8.60	△ 2.75	△ 3.80	1/2	細64%	良好	灰白色	灰白色	
4 - 3	3SD01	磁器	瓶	□ 12.40	△ 3.70	○ 6.85	1/3	密	良好	灰白色	灰白色	
4 - 4	3SD01	磁器	瓶	□ 10.55	△ 5.15	○ 4.70	1/3	密	良好	灰白色	灰白色	
4 - 5	3SD01	磁器	蓋	△ 7.70	△ 2.60	—	—	1/3	細64%	良好	灰白色～灰茶色	
4 - 6	3SD01	陶器	埴輪	—	△ 8.40	—	口沿部破片	細64%	良好	黒褐色	黒褐色	
4 - 7	3SD01	土製品	瓦	△ 9.80	△ 9.30	△ 1.95	破片	粗い	良好	灰茶色	灰茶色	
4 - 8	3SD01	土製品	瓦	△ 7.80	△ 5.60	△ 1.85	破片	細64%	良好	暗灰褐色～灰茶色		
4 - 9	3SD01	土製品	棒状土製品	△ 8.10	△ 3.10	△ 3.10	破片	粗い	良好	明赤褐色	明赤褐色	
4 - 10	3SD01	土製品	不明土製品	△ 6.20	△ 5.40	△ 3.55	破片	やや細い	良好	淡褐色～赤灰色	緑の跡有	
4 - 11	3SD05	土師器	火鉢	—	△ 7.60	—	口沿部破片	細64%	良好	褐茶色	細～灰褐色	
5 - 12	3SK03	磁器	瓶	○ 13.40	△ 3.30	△ 4.00	2/3	密	良好	灰白色	灰～青灰色	
5 - 13	3SK03	陶器	埴輪	—	△ 6.75	—	口沿部破片	密	良好	赤褐色	暗赤褐色	
5 - 14	3SK03	陶器	皿×柄	—	△ 2.10	○ 4.60	1/2	密	良好	褐色	灰褐色	
5 - 15	3SK03	土製品	瓦	△ 14.10	△ 11.10	△ 1.40	破片	細64%	良好	灰黄色	灰褐色	
5 - 16	複乱埋土	磁器	瓶	△ 8.10	△ 4.25	△ 3.30	2/3	密	良好	暗褐色	灰白色	
5 - 17	複乱埋土	磁器	黒皮雀口	△ 7.80	△ 5.90	△ 4.90	2/3	密	良好	灰白色	灰白色	
5 - 18	複乱埋土	磁器	道	—	△ 8.30	△ 4.10	一部欠損	密	良好	明赤褐色	暗褐色～灰白色	
5 - 19	複乱埋土	土製品	椎骨	△ 4.70	△ 1.10	△ 1.10	破片	細64%	良好	灰	灰	
5 - 20	遺構検出面	磁器	紅皿	△ 5.00	△ 1.60	△ 1.20	2/3	密	良好	灰白色	灰白色	
5 - 21	遺構検出面	磁器	壺	○ 6.30	△ 2.60	△ 2.30	1/3	密	良好	灰白色	灰白色	
5 - 22	遺構検出面	磁器	皿×柄	—	△ 2.10	○ 2.80	破片	密	良好	灰白～青色	灰白色	
5 - 23	遺構検出面	磁器	瓶×鉢	—	△ 1.75	○ 4.00	破片	密	良好	灰白～青色	灰白色	
5 - 24	遺構検出面	磁器	瓶	—	△ 6.10	○ 6.00	破片	密	良好	灰白色	灰白色	
5 - 25	遺構検出面	土製品	瓦	△ 7.50	△ 5.10	△ 1.30	破片	やや細い	良好	褐茶色	暗茶色	水田焼？
5 - 26	遺構検出面	土製品	蓋	△ 12.50	△ 5.00	△ 1.20	口沿部欠損	細64%	良好	淡黄褐色	淡黄褐色	

Tab.4 出土遺物観察表

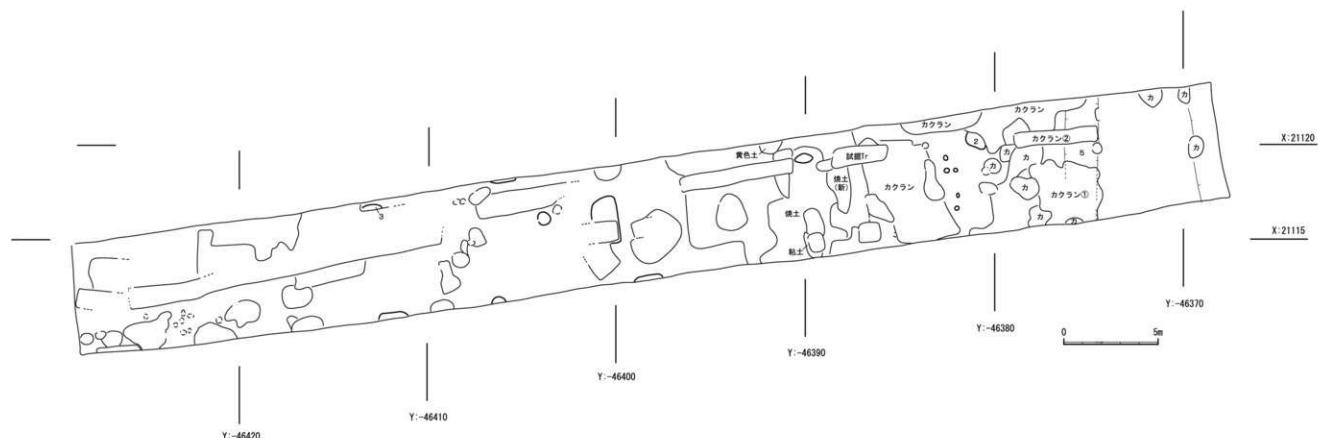
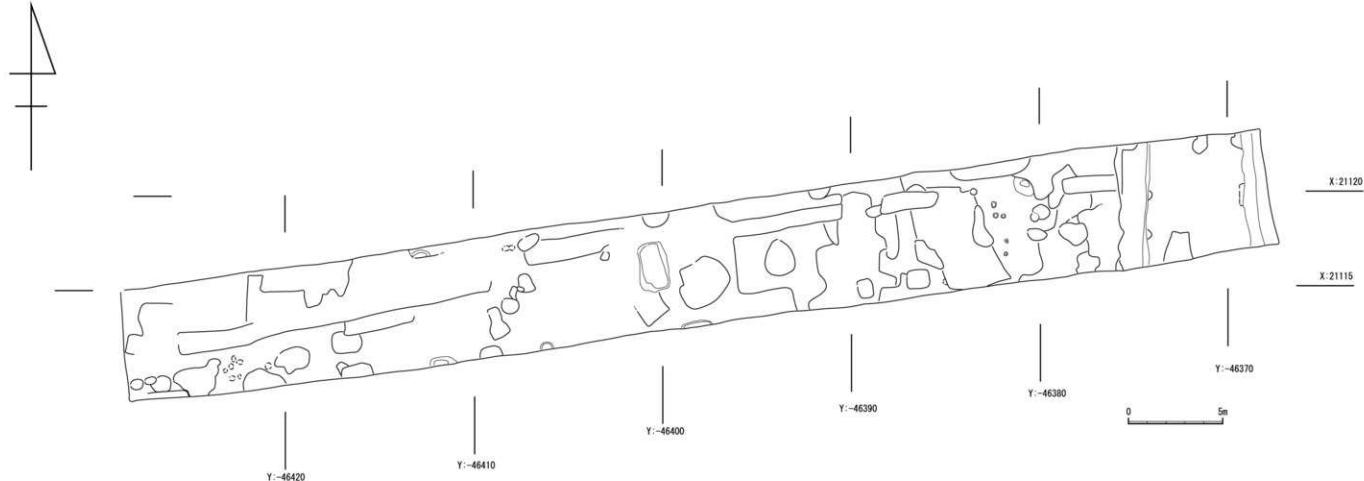
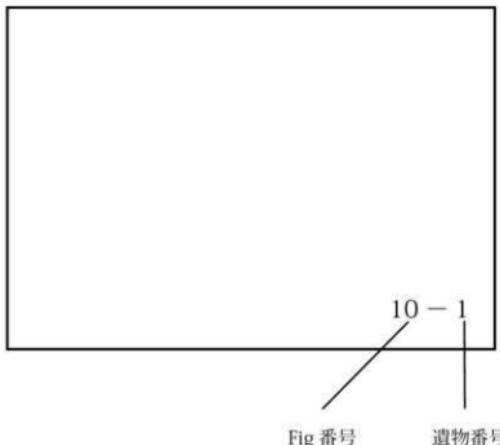


Fig.6 遺構全体図・遺構略測図 (1/200)

# PLATE

## 凡 例

遺物写真右下の番号は、以下のとおりである。





Pla.1 調査区全景（下が北）



Pla.2 溝周辺状況



Pla.3 3SD01 完掘状況 (右が北)



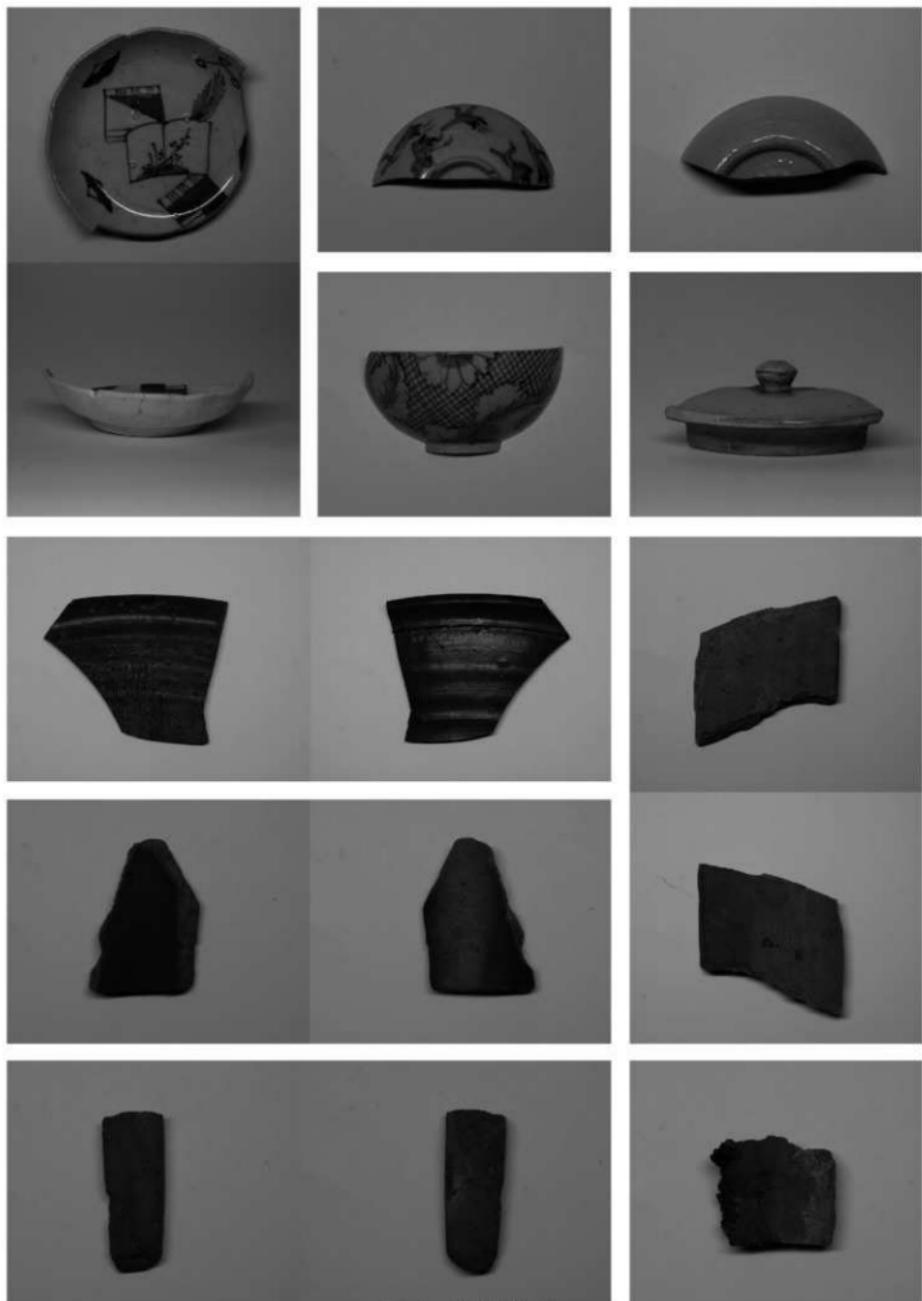
Pla.4 3SD01・05 完掘状況 (右が北)



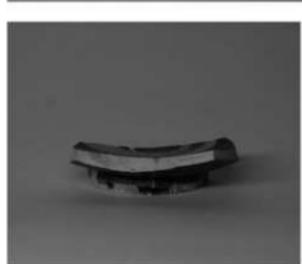
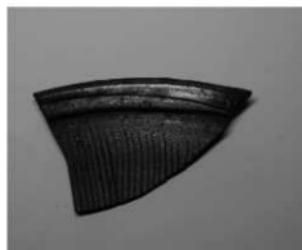
Pla.5 3SD01 完掘状況（南から）



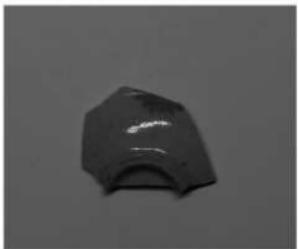
Pla.6 3SD05 完掘状況（南から）



Pla.7 出土遺物①



Pla.8 出土遺物②



Pla.9 出土遺物③

筑後市文化財調査報告書 第100集

**尾島町内遺跡Ⅲ**

平成24年3月31日

発行 筑後市教育委員会

福岡県筑後市大字山ノ井898

TEL 0942-53-4111

印刷